

いの町では、人口減少や少子高齢化が進んだ社会であってもコンパクトで暮らしやすく持続可能なまちづくりを進めるため、新しいまちづくり計画（立地適正化計画）を進めています。

皆様に、進捗状況や今後の予定等についてお知らせさせていただくために、「立適News」を作成しております。本号では、令和3年4月23日に開催されました、第5回庁内検討委員会と、5月11日に開催されました、第2回都市再生協議会についてお知らせします。

第5回庁内検討委員会（R3.4.23開催）について 第2回都市再生協議会（R3.5.11開催）について



第5回庁内検討委員会や第2回都市再生協議会では、これまでの住民アンケートやワークショップ等の結果等を踏まえ、いの町としての都市が抱える課題の抽出や、今後のまちづくりの方針の検討、目指すべき都市の骨格構造、課題解決のための施策・誘導方針の各案を提示しました。

いの町の都市としての成り立ち（案）

■都市としての成り立ち

いの町の都市としての成り立ちは、右図の昭和22年の航空写真にありますように、当時は松山街道（現在の国道33号や商店街）を骨格とし、その後の都市計画により、環状線（山手線）と鉄道（JR・とさでん交通）から市街地が形成されてきた歴史を有しています。これにより、従来より集約連携型都市構造（コンパクト・プラス・ネットワーク）の性格を有するまちとして発展してきています。

■特徴

- ①職住近接型（自宅と職場が近く、通勤・通学時間が短い）の在郷町として、定住型の都市が環状線と道路・鉄道等の沿線に集約されています。
- ②高知市との近接性や公共交通ネットワークにより、通勤通学型の都市として機能しています。
- ③現在の市街地は、市街地内の歩く機能と利用率の高い自動車利用の混在に弊害が生じています。
- ④年齢構成の変化や道路・交通などの発達から、各地区に求められる都市機能が変化しています。

昭和22年 航空写真（国土地理院参照）



平成26年 航空写真（国土地理院参照）



いの町の都市としての課題（案）

いの町の都市全体に関わる主な課題は、人口・世帯の減少と高齢化や、子ども・若者・子育て世代の高知市などへの流出などに対する**人口減少への対応**と、仁淀川沿川に形成されたまちとしての自然災害へ備える**防災リスクへの対応**と捉えることができます。

■課題①人口減少への対応

- ・人口・世帯の減少と高齢化への対応が大きな課題です。
- ・子ども・若者・子育て世代の高知市などへの流出への対応が課題です。

【町外への転出について】

平成27年での5年前常住市町村による転出・転入状況では、転出が転入を大きく上回っています。

特に、近接する**高知市へは290人の転出超過**となっています。次いで、南国市（31人）、土佐市（25人）、香南市（24人）への転出超過があります。また県外へは、大阪府や広島県・愛媛県などへの合計307人の転出超過があります。

一方、須崎市や仁淀川町・四万十町などからは、転入超過が見受けられます。

【高齢化社会について】

団塊世代が高齢人口に移行し、平成27年は65～69歳人口が頂点となりました。今後、さらなる高齢化の進行が予測されます。

子育て世代が年々減少し、また、子どもたちは高校卒業後、進学や就職により町外へ出るにより、若者世代の社会減が課題です。



資料：平成27年国勢調査



	転入	転出	差異
高知市	676	966	▲290
南国市	46	77	▲31
土佐市	78	103	▲25
香南市	13	37	▲24
須崎市	44	27	17
仁淀川町	25	15	10
四万十町	27	17	10
県内 (上記含む)	1,174	1,509	▲335
県外	403	710	▲307
合計	1,577	2,219	▲642

資料：平成27年国勢調査

■課題②防災リスクへの対応

- ・甚大な被害をもたらす南海トラフ地震や、仁淀川の洪水などの災害リスクへの対応が必要です。

【居住に係る災害リスクについて】

いの町には軟弱な低湿地や旧河道が見られ、南海トラフ地震などでは、揺れが大きく、宅地の倒壊や液状化のリスクが懸念されます。

また、仁淀川や宇治川の洪水により、度々水害の被害を被っています。このため、国・県・町が連携したハード整備事業のなかで、浸水被害対策を行っていますが、これからの気象変動等のなかで、今後も、洪水、土砂災害、天王ニュータウンの大規模盛土などの対策が必要と考えています。



まちづくりの方針（ターゲット）の検討（案）

いの町の都市としての課題は踏まえたうえで、今後の都市の将来像（案）、まちづくりの方針（ターゲット）を下記のとおり作成しています。

まちづくりの方針（ターゲット）は、今後どのようなまちづくりを進めるのかを示す基本方針と言えるものです。

■将来都市像（案）

仁淀川とともに歩む、

いの町らしい定住・通勤通学型まちづくり

いの町の都市構造や暮らしに必要な不可欠な清流仁淀川と共存するまちづくりのあり方を示しています

立地適正化計画の手法で実現を目指す暮らし方を示しています。高知市へ近いと言う立地条件を活かし、職住近接で、高知市へも便利に通勤通学できる暮らしを示しています

- ・松山街道及び環状線と鉄道から形成されてきた市街地の都市構造と都市機能の再構築により、いの町らしい環境や暮らしを活かしながら、高齢者、女性、若者世代や働く世代が職住近接で安全に定住でき、高知市へも便利に通勤通学のできる暮らしを享受できるまちづくりを進める

※将来都市像（案）については、今後、都市再生協議会での議論、誘導施策の方針における庁内調整を踏まえて、実現可能な暮らし方を示すものとして、必要に応じて見直しを行います。

■まちづくりの方針（ターゲット）

居住誘導に関わる方針

在郷町として発展した
仕事と暮らしのまち

都市機能誘導に関わる方針

仁淀川から陸路に沿って発展した
歩いて暮らせるまち

交通ネットワークに関わる方針

河港から高知市を結ぶ
交通で発展したまち

防災に関わる方針

水害リスクを認識したうえで、
安全に暮らすことができるまち

目指すべき都市の骨格構造の検討（案）

いの町のこれまでの都市の成り立ちを活かしながら、都市機能を集約・強化します。

いの町の市街化区域は、伊野駅周辺、枝川駅周辺、波川駅周辺、天王地区周辺に人口が集積しています。今後は、都市機能の集積する伊野駅周辺をいの町の中心拠点として強化するとともに、枝川駅周辺・波川駅周辺・天王地区周辺を地域拠点として位置付け、暮らしを支える機能を充実させていきます。

■目指すべき都市の骨格構造

仁淀川と街道・鉄道に骨格を形成されてきたまちの再構築

いの町の暮らしを支える「中心拠点」
への都市機能の誘導

●伊野駅周辺

生活サービスを提供する「地域拠点」への機能の誘導

●枝川駅周辺 ●波川駅周辺
●天王地区周辺

拠点間や高知市を結ぶ骨格交通軸（地域間連携軸・地域内連携軸）の強化

●国道33号 ●JR土讃線 ●とさでん交通伊野線
●広域連携軸：高知西バイパス、IC、高知自動車道



課題解決のための施策・誘導方針（ストーリー）の検討（案）

「仁淀川とともに歩む、いの町らしい定住・通勤通学型のまちづくり」をまちづくりの方針（ターゲット）案として提示しました。

今後は、この方針に基づき、中心拠点を伊野駅周辺、地域拠点を枝川駅・波川駅各駅周辺と天王地区周辺として、まちづくりを展開していきます。

具体的なまちづくりに際しては、以下に示す施策・誘導方針（ストーリー）案に従って進めていくことを検討しています。

ターゲット	仕事と暮らしのまち	仁淀川から陸路に沿って発展した歩いて暮らせるまち	河港から高知市を結ぶ交通で発展したまち	水害リスクを認識したうえで、安全に暮らすことができるまち
施策・誘導方針（ストーリー）	■ 職住近接の定住施策 ■ 利便性の高い拠点周辺への居住の誘導 ■ 多様な住まい方が可能な定住環境の形成 ■ 子育て世代や若者を引きつけるための誘導施策	■ 暮らしの機能の誘導 ■ まち歩き場のづくり、にぎわいの創出のための誘導 ■ 空家を活用した生業・雇用の場、まちなかでの居住の場の誘導	■ ICとのアクセス性向上 ■ 施設・道路のバリアフリー対策 ■ 公共交通の利用促進による居住誘導 ■ 環状線内の交通安全対策、緊急車両対策 ■ 広域交通ネットワークによる一層の居住圏の拡大・通勤圏の利便性の向上 ■ 中山間地域の生活サービス支援	■ 流域治水・内水対策、仁淀川・宇治川などの治水対策等 ■ 地震、地滑り、土砂災害対策 ■ 命を守る対策（避難路、避難場所、避難体制の充実）

イメージ：子育てしやすい環境による定住



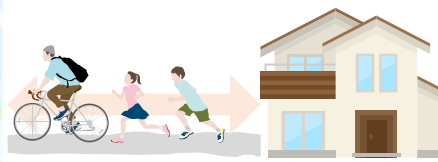
イメージ：バリアフリー化による歩きやすい・くらしやすいまち



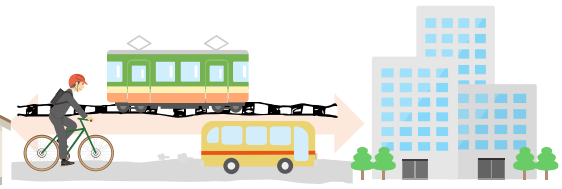
イメージ：職住近接の通勤・通学のまち 豊かな自然が身近にある暮らし



豊かな自然



住まい



勤め先

イメージ：まち歩きを活かした賑わいづくり



イメージ：安全に暮らすことができるまち

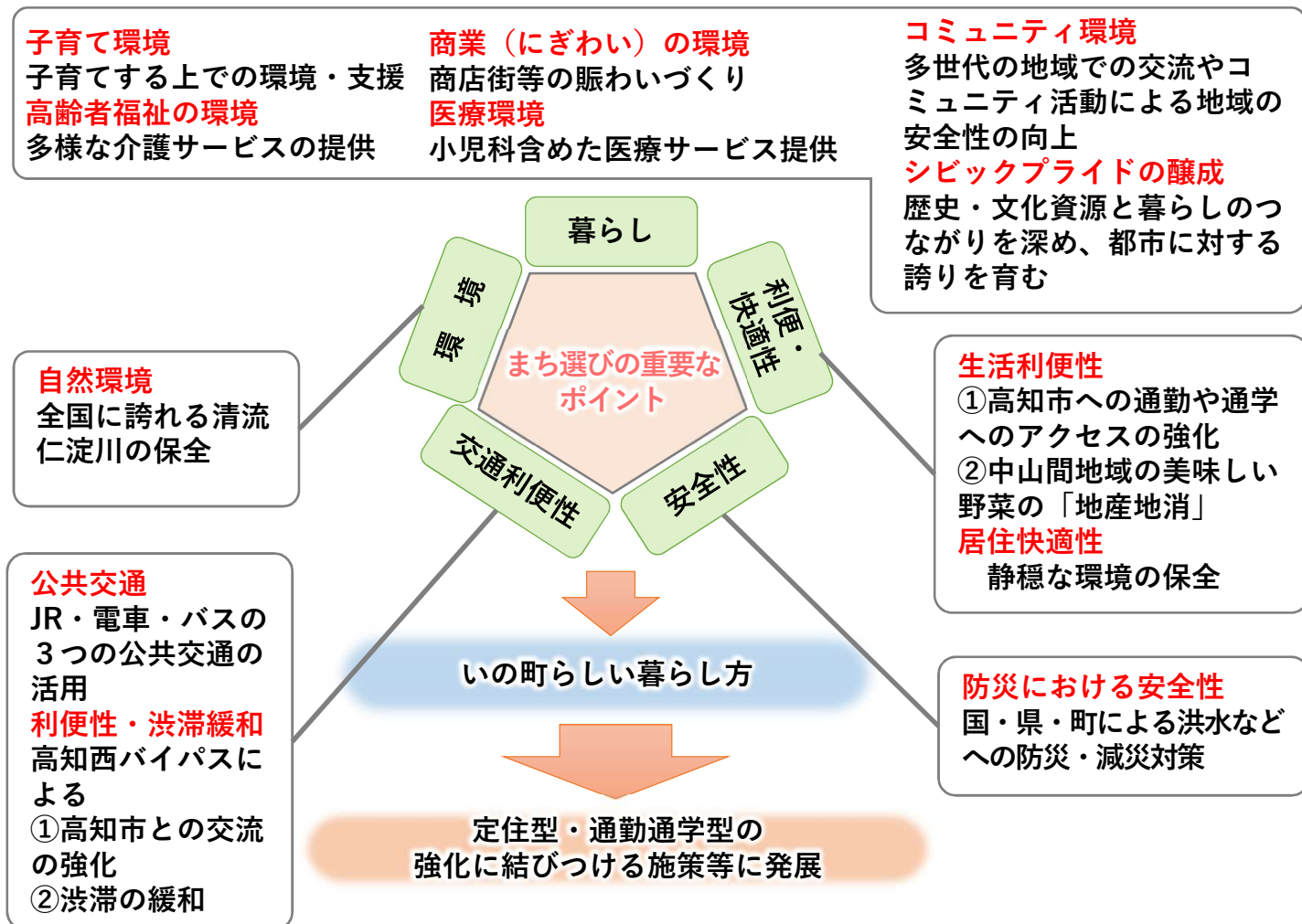


（仁淀川流域治水対策協議会資料抜粋）

【参考】誘導施策の分野の整理

今回の立地適正化計画を策定するなかで、まちづくりの重要なポイントを5点抽出しました。いの町の市街化区域では、仁淀川に代表される**自然環境**や、高知市への通勤・通学へのアクセスの良さである**利便・快適性**、JR・電車・バスの3つの公共交通手段が存在している**交通利便性**などを「強み」としています。他方、高知市などへの転出超過が見受けられるとともに、洪水などに対する**安全性**に「弱み」があります。

いの町らしい**暮らし**の仕方をキーポイントとして魅力づくりを図りつつ、定住型・通勤通学型の強化に結び付ける施策等に発展させていきたいと考えています。



計画策定のスケジュール（案）

	R3年度												R4年度
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月～
計画検討	都市機能・居住誘導区域設定の検討 防災指針の検討												策定 公表
検討委員会	●						●				●		
協議会 他	協議会						協議会		パブリックコメント、住民説明会等		協議会		
	◆						◆				◆		

※今後のスケジュール（案）を記載しています。令和3年度は、都市機能誘導区域・居住誘導区域の設定及び防災指針の検討を進めます。その後、パブリックコメントや住民説明会を実施します。

問い合わせ先

いの町 土木課 （担当：岡林・北川）

TEL：088-893-1116
FAX：088-893-1440